

ク  
ロ  
ー  
ン

中野  
劇団

# クローン

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

山田

主任

ファミレスの従業員控え室。制服(エプロンとか)を来たバイトの山田が休憩中。主任がやって来る。

山田 お疲れ様です。主任、来週病院行く日、シフト変わってもらいました。

主任 ああ、うん。仕事、慣れて来たか。

山田 そうですね。

手で頭を押さえ、痛みを堪える山田。

主任 痛むのか？

山田 すいません。……何かを思い出そうとすると、いつも頭が……。記憶、もう戻らないんですかね。

主任 うん。

山田 え？

主任 いや……。君は何らかの事故に遭い、その時に頭に傷を負って、それで記憶を失ったんだと思うと言ってたよね。

山田 ええ。

主任 違うんだよ。

山田 ……違う？

主任 失ったんじゃないくて、……最初からなかったのだよ。

山田 ……どういふことですか。

主任 ……。

山田 どういふことですか？ 何か知ってるんですか主任！

主任 今から全てを話す。あることないこと。

山田 あることだけにして下さい！ 俺は誰なんですか？ どうして主任は俺のことを知っているんですか。

主任 何故君に記憶がないのかをいきなり告げるとショックがあまりにも大きいから、その前に、まずクローンがどういうものかについて説明しておく。

山田 え？ 俺クローンなんですか？

主任 (無視して) クローンっていうのは、細胞を採取して。

山田 ちよちよ、え？ クローン!?

主任 ……そうだ。

山田 え？ 冗談ですよね。

主任 こんなこと冗談で言う程暇じゃないんだよ！ ご飯もまだなのに！

山田 そんな話、どうやって信じるって……。

主任 私の鞆の中に手つかずの弁当が。

山田 ご飯の話じゃないですよ！ 主任って何なんですか？ ただのファミレスの主任じゃないんですか？

主任 私は日本の凄い頭のいい人達が集まった研究の集まりの主任なんだよ。

山田 その言い方にあまり知性を感じないんですけど。何でそんな人が、ファミレスで働いてるんですか。

主任 副業は自由によつていいんだ！

山田 何でさっきからどうでもいい所に力を込めるんですか！ 大事なことはサラッと言うくせに。

主任 君に記憶がないのは、君が今から三ヶ月前に生まれたからだ。そう、君は培養器の中で僅か三ヶ月で育ったんだ。

山田 培養器……。

主任 特殊な培養器だね。我々の時間で一分かかるものが培養器の中ではたった一時間で補え違う逆だ！ 培養器の中での一時間は、我々の時間で一分経ったことに、違う！ それはまあいい。

山田 諦めるなよ！ 凄い頭のいい人じゃないのかよ。

主任 私は技術者じゃない。ただブレゼンの腕を買われて――

山田 そっちもさっきから全然なっていないよ！ ……大体、クローンの製造なんてやっていいんですか。

主任 私だって本意じゃなかった！ けど、私には研究を中止する権限しか――

山田 だったら中止しろよ！ その持つてるたったひとつの権限を行使してくださいよ！

主任 そうしたら、君はこの世に生まれて来なかったんだぞ。

問。

山田 ……本当にクローンなんですか。

主任 いきなりそんな宣告をされたのでは、ショックがあまりにも大きいかと思って、先週、君のアパートの郵便受けに、ヒントとなる写真を一枚入れておいたんだが。

山田 あれ、主任だったんですか。郵便受けにマナカナの写真入れたの。

主任 見たのに気づかなかったわけか。

山田 気づくわけないでしょ！ 郵便受けにマナカナの写真入ってて「俺、クローンかも」って思いますか？

主任 何の疑問も持たなかったのか？

山田 「何で俺の郵便受けにマナカナの写真が入ってたんだよ」とは思いましたよ！

主任 あれは合成写真だ。

山田 え？

主任 両方マナなんだよ！

山田 わかんねえよ！

主任 どっちもここ（目の下）にほくろがあっただろ！

山田 そんなどこ見てねえよ！

主任 同じ人間が二人写っている。イコール、クローンという発想には……。

山田 至らないよ！ ……それと、ほくろあるのがカナだから。

主任 知ったことか！

山田 ハア!? ……クローンってことは、他にもいるんですか。

主任 いや、君だけだ。

山田 じゃあ、もともとの俺は？

主任 山田オリジナルのことか。

山田 何その呼び方!? ツクダオリジナルみたいな！ あのアパート、その本物の俺が

住んでたんじゃないんですか!?

主任 その通りだ。

山田 どうしてオリジナルじゃなくて俺が住んでるんですか。

主任 山田オリジナルはもう、この世に存在しないからだ。

山田 どういう意味ですか……。

天を仰ぐ主任。

山田 ……じゃあ俺は最近生まれただけのことですか。どうりで俺の写ってる写真が小さい頃のも全部LINEのアルバムにしかないわけだ。

主任 大変だったんだよ。ちょっと大きくなったら、培養器から出して服を着せて、書き割りの前に立たせて写真撮って、また服脱がせて……。

山田 その大変っていうのは、面倒くさいと同義語か。てか何で携帯で撮ってたんだよ。その時に隣で開発してた素振りロボットに頭ポコって。

山田 これ（頭の傷）あんたか！ てか何？ 素振りロボットって！ 何処に需要があるの！ 腹立つなあ。あれ？ ちょっと待って。何で写真撮る必要あるの？ 本物の俺の写真があるでしょうが。



主任 問題があつて、山田オリジナルの写真は全て処分した。

山田 問題つて？

間。

主任 ……似てなかった。

山田 クローンでしょ!?

主任 クローンはあくまで同じ遺伝子だというだけだ。その後の成長過程で、個体差も出てくる。

山田 太つたり禿げたりつてことですか？

主任 そういうことだ。因みに山田オリジナルは、マイケルジャクソンにそっくりだった。

山田 人種レベルで違うじゃねえか。……あ、そういうこと？ 整形して個体差があるつてこと——

主任 マイケルは整形なんてしてなかった！

山田 ……そうですか。……こんな研究、俺は認めないからな。

主任 君が何と言おうと、もう商品化も決まっている。

山田 何なんだよ商品化って。大量にクローン人間作って戦場に送り出すとか言うんじゃないだろうか！

主任 勘違いするな。我々が開発しているのは培養器の方だ。

山田 培養器？

主任 そう。二十一世紀最大の発明だ。

山田 え？ クローンは？

主任 二次産物だ！

山田 ええ？

主任 クローン人間なんて、道徳的に禁止されているだけで、実現可能なことは二十世紀中にわかっていたことだ。そんな研究を発表するなんて、解禁前にヘアヌード集を出すようなものだ。

山田 何の話だ。

主任 培養器は科学の粋だ。度重なる失敗の末、漸く君で成功したんだよ。

山田 どれだけ俺と同じようなクローン作って殺したんだよ！

主任 ……本物の山田君さえ生きていれば、私だってこんな実験しなくて済んだんだ！

山田 ……本物の俺は何で死んだんですか。

主任 培養器の最初の実験台に。

山田 言ってること矛盾してるじゃねえか！ 何で？ もともと成人だったんだろ？

何で培養器に入れちゃってるの？ 自分でやってることわかってんの？ 殺人だ

ろうが！

主任 殺人？ どうして？ 山田君はこうして私の目の前にいる。

山田 ……いや、マイケルに似てるって。

主任 君は我々に従うしかないのだよ。

山田 ……俺は、一体これからどうすれば。

主任 君には、今まで通りの生活をしてもらう。

山田 え？

主任 君がクローンだと世間にはれるとまずいんだよ。山田オリジナルのことが明るみ  
に出る。君はクローンであることを意識せずに、今まで通り生活すればいい。

間。

山田 ……だったら教えるなよおおお！

主任 君がクローンであることを知ってておいてもらわなければならない事情ができたんだ。

山田 事情って。

主任 ……。

山田 何なんですか、事情って。

主任 欠陥が見つかった。

山田 欠陥って。

主任 私も信じられなかった！ いや信じたくなかった。いや信じてた！

山田 どっちだよ。

主任 私が至らないばかりに。君にこんなむず痒い思いを……。

山田 むず痒いとかってレベルじゃねえよ！ その欠陥って何なんですか。

主任 聞いてどうする！

山田 あんたが言いかけたんだろ！

主任 いいんだな。

山田 いいから言って下さい。……その前にクローンって俺だけなんですよね。

主任 そうだ。

山田 どうして欠陥があるってわかったんですか。俺しかいないのに。

主任 ずっと観察していてわかったのだ。

山田 観察って何ですか？

主任 君の生活を毎日二十四時間ビデオカメラに記録していた。

山田 盗撮ですか？

主任 観察だ。

山田 ……盗……。

主任 観察だ。

山田 いやだって……。

主任 観察だ。

山田 ……。

主任 ……。

山田 ……で、欠陥って何ですか。

主任

クローン人間は、普通の成人男子の平均より約三倍も性欲の自己処理頻度が高いことが判明したんだよ！

山田

それは欠陥なんですか？ 個人差ではないんですか。

主任

とてもそう割り切ることはできない！

山田

そこはそつとしておいてくれたらいいことじゃないんですか。

主任

本当に済まないことをした！

山田

何でそんな強く謝るんですか。…：何なんだよ。別にクローンは長生きできないとかじゃないんだろ。

主任

ある意味死に急いでいるようにも見えた！

山田

煩いよ！

主任

君は本来の生殖活動によって生まれてきたわけじゃない。そのことが無意識下で、君を生殖活動への冒険ともとれる行為へと駆り立てていたのかも知れない。

山田

いいよ、そんな後付け。

主任

君の体は君ひとりのものじゃない。大事にしたまえ。君を作り出すのに、一体どれだけのぶんを注ぎ込んだと思ってるんだ!!

山田 でんぶんくらいいいだろ！ 金つぎ込めよ！

主任 金は殆どかけてない。

山田 だから失敗するんだろぅが！

主任 ……副業の限界だ。

主任去る。

山田 ……こっちが副業かよ。

終わり。